

MRI 創世記裏事情

久本 泰秀(元 JIRA MRI 委員長)



武田鉄也の「思えば遠くへ来たもんだ」というメロディはその歌詞と共に馴染みやすい曲ですが、私にとって MRI のことはこの歌同様遠いものになってしまいました。

1980 年ごろだったと思いますが、核磁気共鳴イメージングとか NMR-CT とかの活字が目に入るようになった時期に、私は H 社の医用事業推進本部に籍を置いておりました。上司が英国のダマデアン教授の研究室を尋ねたこともあり、NMR-CT が将来大きな市場になるかもしれないと熱い議論をしていた時代でもありました。

そんな時、突然 JIRA の技術部長さんからお電話をいただき、JIRA の MRI 委員会に入ってくれとの話でしたので、二つ返事でお引き受けしたのです。当時は核磁気共鳴医学研究会や医用画像研究会が立ち上がった時でまさに MRI 創世記の出発地に立っていた頃であったと思います。

その頃の研究会等で仕入れた情報の中でもっとも印象に残っている会社があります。研究室用の理化学機器として世界に供給するトップメーカーがあったのですが、開発技術者を根こそぎヘッドハンティングしてしまったのです。そしてまだ RNSA で展示もしていないのに、将来 NMR-CT はこんな形、仕様になるなどと提案して存在を PR していました。2T(テスラー)以上は人体に影響があるなどとまことしやかな説明をしていたのもこのころですし、家電部門を売り払って ME 事業に本腰を入れるとの経営方針を明確にしたのも同時期であったかと思います。後日談ですが、開発が軌道に乗って御用済みになった彼らはまたもとに戻ったと聞き、その雇用関係の差異に二度びっくりしたものです。

一方、JIRA の MRI 委員会では、標準化などにも取り組んでいたのですが、なにしろ創世記ですから、委員の出入りも多く、委員が他社へ転職したり、会社の方針で超伝導の開発を休止すると噂に反発して会社を辞めるなど一連の出来事がありました。その後音信不通ですが、機会があれば、当時の事情を肴にそれらの方々と一度飲み会でもしてみたいものだと思っています。また上記研究会の企画運営などでリーダーシップを取っていた方がいつの間にか大学教授になっていたなど、創世記なりの色々な裏事情がありました。

超伝導 MRI の開発については、国内大手が国産化にもっとも熱心に取り組んでいたと思います。国内他社も自社開発を進めていて、上記研究会の討議も盛り上がってきておりました。私が担当していた部署も英国から超伝導磁石を導入することとし、推進本部が中心になって、社内病院の看護婦寮地下室に据え付けたのですが、そのころ、工場、研究所の対応はいまひとつで、私が一人で現場監督として立ち会ったのを覚えています。床強度が 500kg/平方 m で強度が大丈夫かどうかなど取り越し苦労もしたものです。

また、そのころ、理化学機器としての NMR については、特に永久磁石 (PM) の 60MHz NMR は世界

ひろば

へ向けて輸出していました。そんな背景もあって、もう時効だから良いと思いますが、永久磁石 NMR-CTこそ取るべき道として開発企画書を記述し提案したことを思い出します。5年先、10年先の市場についても記述する必要があり、日本市場は 2000 台以上になるなどと予想しましたが、はからずも予想通りの結果になったことに驚いております。

米国から常伝導磁石や超伝導磁石を購入したこともあって、英国人セールスマネジャーが何度も私を訪ねて来て雑談まじりに情報交換したものでした。その方の決断だったかと思いますが、日本の大手電線企業と提携し、超伝導磁石の国産化をトライした時期もありましたがこれは結果的に成功しませんでした。その後国内各社は自社で超伝導磁石を開発するところまで頑張ったのですが外資系との資金力の差からやはりきびしい状況になっており、現状については皆様ご存知の通りです。その後外貨減らし政策の余波を受けたことも国産各社には逆風だったかもしれません。

MRI はいまでは MR と呼ばれており、病院での脳検査他の必需品になっていますが、私も最近になって始めて MR 検査なるものを受けました。そういえば圧迫感をなくするにはどうするかとか、コンコンという音を低減するにはとか、色形の患者に与える影響はどうかなどと会議でいろんな議論がなされていたことを思い出しました。MRと絶縁して 20 年以上になりますので、JIRA の MR 委員会が現在どうなっているのかまったく存じませんし、もちろん現在のMRの開発状況、各社動向についても存じ上げておりません。私にとっての MRI は遠い夢世界のことになりました。お声をかけていただいた元 JIRA 技術部長も会社の上司も皆いなくなりました。MR 検査の結果、いまさら脳に隙間ができていなどと指摘されても、もうどうしようもありません・・・。